実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和７年度
助成団体	公益財団法人東京２０２５世界陸上財団
事業細目名	国際競技大会開催
事業名	世界陸上競技選手権大会開催事業
助成金額	1,992,960,000 円

令和７年度国際競技大会開催助成を活用し、公益財団法人東京２０２５世界陸上財団が開催した「世界陸上競技選手権大会開催事業」（東京 2025 世界陸上競技選手権大会）の実施状況について調査を行いました。世界陸上競技選手権大会はワールドアスレティックス（世界陸上連盟）が主催し、準備及び運営に関する事業を行う運営組織として「公益財団法人東京２０２５世界陸上財団」が設立されました。

18 年ぶり 3 回目の日本開催、また東京での開催は 34 年ぶりとなった本大会は、国立競技場を主な舞台とし、猛暑がまだ残る 9 月の開催において一番暑い時間を避ける為、早朝のモーニングセッションと夕方からのイブニングセッションに分かれ、全 49 種目もの競技が 9 日間に渡り開催されました。

世界約 200 か国、選手約 2,000 名、指導者 1,500 名が参加し、観客約 600,000 名という大盛況の大会となり、特にイブニングセッションではチケットの購入が難しい状況になり、当初の予想を上回る観客数となりました。

国立競技場内にはもちろん、国立競技場外でのマラソン・競歩等での競技においても、沿道に沢山の観客が集まり、各国選手及び大会スタッフ・警備・ボランティアスタッフ等を間近で実際に観ることができ、また、様々なメディアにも非常に多く取り上げられたことから、たくさんの方にとって、身近に感じることができる大会となりました。

■助成の意義

競技運営や会場運営などの環境整備に必要な経費や、会場周辺等の大会関係者・観客の安全確保に必要な経費を確保することができ、安全対策の具体例としては会場に 86 台の AED を設置し、本部にドクターを 26 名が常駐、また会場入場時では手荷物検査、金属探知機による検査等を実施する等、安全面の対策がなされたとのことです。

一方、助成を受けられなかった場合は選手に直結する内容等を含め大幅に計画を縮小せざるを得ず、運営に支障をきたしていた可能性があったとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

大会スポンサーと連携し、各種イベントでの PR や SNS 等での Web 広告及びテレビ CM 等で戦略的なプロモーション活動を行い、集客を図ったとのことです。また、マスメディアに取り上げられたことも、より注目され集客に良い影響があったと考えられているようです。

チケット購入時には連絡先の登録を必須とし、その連絡先にニュースレターを配信し、また、問合せ窓口、コールセンターを設置し、大会に関する問合せの対応と情報提供を行っていたとのことです。

■その他

地域への貢献として、学生や障害等のある方を招待したそうです。

また、全国から約 250 名の審判員の派遣を受けたほか、関連団体よりコラボレータ（審判補助）約 600 名の派遣を受けたとのことです。ボランティアの募集では応募が多数あり、抽選を経て約 3,000 名の方に従事していただいたとのことです。

国立競技場の周りでは各スポンサーのブースがあり、大会を盛り上げていました。

また、暑さ対策としてクーリングスポットの設置、かぶる日傘レンタルなどがあり、様々な暑さ対策を見ることが出来ました。

■所感

陸上競技の世界最高峰と言われる本大会において、競技の面白さ、アスリートの凄さ、応援する素晴らしさ、またそれに関わった運営の方、ボランティアの方等、様々な思いや感動を感じた 9 日間でした。新しい挑戦をしたいと感じた方も多かったかと思いますが、今回の大会によって、今後に繋がる道しるべが残されていくことを期待致します。

（令和 7 年 10 月 27 日往査）

（写真）東京 2025 世界陸上競技選手権大会の様子	
	